

他誌掲載論文 (所属については投稿時のものを掲載した。)

2013～2017年に広島市で分離された腸管出血性大腸菌 O26:H11 (VT1 産生) 株の分子疫学的解析
千神彩香 青田達明 栗林智早
坂本 綾 松室信宏 石村勝之
厚生労働科学研究費補助金(新興・再興感染症及び
予防接種政策推進研究事業)食品由来感染症の病原
体情報の解析及び共有化システムの構築に関する研究
平成 29 年度 総括・研究分担報告書, 93
～98, 2018

2013～2017年に分離された腸管出血性大腸菌 O26:H11 (VT1 産生) 株 22 事例 32 株について、PFGE 法及び MLVA 法(7 座位)を用いて分子疫学的解析を実施した。複数の事例間で PFGE 法, MLVA 法共に一致したものの中には、疫学調査による関連性が不明なものもあったが、2017年に発生した 2 事例に関しては、疫学的関連性の可能性が認められた。

カキからのノロウイルス検出法の検討について
山本美和子 野田 衛* 則常浩太
兼重泰弘 藤井慶樹 松室信宏
厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進
研究事業)ウイルスを原因とする食品媒介性疾患
の制御に関する研究 平成 29 年度 総括・研究分
担報告書, 205～210, 2018

アセトン添加法によるカキからのノロウイルス検出法の改良と、アミラーゼ溶液の至適量の検討を行った。アセトン添加法では、中腸腺 1g に対し 250 μ l のアセトンを追加することで実測値コピー数が若干高い結果となったが、アミラーゼ溶液添加量による検出感度に違いはみられなかった。PEG 沈殿法では、アミラーゼ溶液を中腸腺 1g あたり 10 μ l 添加した場合に実測値コピー数が高いことが示唆された。

*: 国立医薬品食品衛生研究所

2010～2017年の広島市における手足口病患者等
からのエンテロウイルス (EV) 検出状況
-重症化例も含めて-
藤井慶樹 則常浩太 兼重泰弘
山本美和子 松室信宏

病原微生物検出情報 38 (10), 195～196, 2017
広島市では 2010 年にエンテロウイルス A71 型 (EV-A71), 2011 年, 2013 年, 2015 年, 2017 年にコクサッキーウイルス A6 型 (CV-A6) を主因とする手足口病の流行が認められた。

EV-A71 は中枢神経系合併症を引き起こす頻度が高いとされるが、CV-A6 も脳炎や無菌性髄膜炎等の患者から検出されており、重篤な症状を引き起こす可能性があるウイルスとして、注意が必要である。

CV-A6 が検出された患者は、39.0°C 以上の高熱を呈する割合が高く、また、水疱性病変以外に丘疹、紅斑等を含む発疹性の病変が認められる割合が高かった。手掌や足底の水疱を主徴とする典型的な手足口病と比べて、CV-A6 による手足口病は病像が複雑であることが示唆された。

広島市における大気中の揮発性有機化合物 (VOCs)
濃度について
加藤寛子 神田康弘* 細末次郎
下田喜則 坂本哲夫

全国環境研会誌 Vol. 42, No. 4, 47～53, 2017
大気環境中の VOCs 濃度をより詳細に把握するため、平成 26～27 年度に、昼間と夜間に区切った昼夜別調査を実施した。固定発生源の影響がある VOCs は、昼間濃度が高く、夜間濃度が低い傾向が見られ、昼間/夜間比は 1.6 以上となった。特定の期間に濃度が上昇した VOCs については、PM2.5 及び NO₂ 濃度との関連性や後方流跡線解析の結果から、それらの VOCs の由来を推測することができた。また、有害モニタリングで、PM2.5 と共に VOCs が高濃度となった事例についても紹介する。

*: 環境局施設部施設課